幼稚園四十年（四）

菊池ふじの

以上述べたようにして、組全体が共通の目的をもつ生活を、先生も子どもも楽しみながら張りあいのある生活をおくったものであった。倉橋先生は私たちが楽しそうに次々と新しい主題の下に生活しているさまをご自分も楽しそうに見ていて下さった。そしてときどき仕事場へ出かけていらしたり、保育室の中にはいっていらして、ヒントや助言を与えて下さった。先生はこの保育を誘導保育と名づけられた。この誘導保育の一つとして「人形のお家を中心として」という題で、当時の「幼児の教育」にのせたものを再掲載して導入や活動の過程、子どもたちの有様などを知っていただくことにする。

人形のお家を中心として

人形のお家を中心として保育案を立ててみたいとは、かねてからの久しい念願でありましたが、今度漸く着手してみました。

明けて昨年の暮になりますが先ずはじめに、人形を求めたのでございました。そうたくさんでもない材料費から支出するとしては、かなり高価だったのでございますが、一人では淋しかろう、せめて二人は欲しいものと思いまして、揃えたのでした。今思えば、何も高価なものをわざわざ求めるにも及ばなかったのでございます。キャラコの布で縫い合わせて、その中に綿をつめて、洋服を着せ、帽子を被せ、靴下、靴等を穿かせれば、店で売っております西洋人形に劣らぬもの、しかも却って味のある、壊れる心配の無いものが出来上ったのでございましたのに。

人形を揃えましたところ、子供達、とりわけ女の子の悦びよ

うは、とてもお話になりません。男の子までが可愛がって、代る代る代り合っては抱っこをしたり、おねんねをさせたりいたすのです。今まできかん坊で、みんなをかれこれ指図していた女の子などは、人一倍お人形が好きで今まで人を支配していたのが、その関心の全部を挙げてお人形に注ぎますわけで、その気のつくこと、親切なこと、見ていて涙ぐまれる程で、とても今までに見られない美しい光景を現わしたのでございました。

さて或日の午後、お帰りの時間も間もない頃、私は組の子供達みんなに向ってこう申しました。「この二人のお人形さんは姉妹で、昨日アメリカから来たばっかりです。お姉さんはメリーさんといい、妹さんはマリーさんというお名まえです。お友達もまだ出来ませんし、お家もありません。おべべも今着てるのだけなのです。ほんとに淋しいのですから、これからみんなでよく遊んで上げましょうね。それから不自由なものを男の方も、女の方も、みんなで作って上げましょうね」と、そして「どんな物を作って上げましょう。皆さんの拵えて上げたいと思うものいってちょうだい」と。すると今迄お人形さんと遊んでいて、お布団が無くって可愛想だ、といっていた子供達は、いち早く「お布団」といい出しました。それから続いて、お机を、お椅子を、と後から後から細かいものが色々と出てまいりましたが、なかなかこっちの計画にはまってくれません。子供達にとっては初耳の計画なのですから、予期するこっちが無理なのです。

で私は皆の後に「先生はね、このお人形たちのお家を拵えて上げたいの」と申しますと「そうだね、お家を拵えて上げるといいね」と男の子はすぐ賛成。それから私「そしてね、そのお家、お窓をつけて、カーテンを下げましょう。そのカーテンの模様はみんなで描きましょうね。それからお家の床板に敷く敷物も欲しいの、そして敷物には、みんなで考えて何かぬいとりをいたしましょうね」というと、眼を輝やかせていたみんなはコックリとうなずく。それから又、私はつづける「敷物が出来たら、今度はお人形さんのベッドも拵えましょう、それからお机もお椅子も作りましょう。お家が出来たら今度はお庭の方にお花畑も作りたいし、温室も作りたいの。それからお馬も飼いたいし、豚も飼いたいの」と。ここまでいうと、子供等の眼はいよいよ輝いて来ました。それから又つづける「こうしてメリーさん達のお家が出来たら、今度は、メリーさん達の買物に行く町を作りたいと思いますね」と子供達の賛成を求めると、みんな黙って頭をコックリして賛意を表わす。「その町に、どんなお店を作りましょうか」と申しますと、今度は子供達は競って答える。

「おもちゃ屋」「お菓子屋」「お薬屋」「ラジオ屋」「お魚屋」「靴屋」「紙屋」「お花屋」

と、なかなか尽きそうもない。いえるだけをいわせてボールドへ列記して見たのでした。町の相談が一わたり済みましてから、今度は「じゃあお人形さんが町へ買物に行く時に何に乗っ

て行きましょうか」と聞きますと、男の子等、吾れ先に「電車」「自動車」と答える。「そう、その電車も自動車も拵えましょうね。そういうものは男の方達一生懸命拵えてちょうだいね」といえば、自信ありげな男の子等のうなづき。「それから、町が出来たら、今度は、町の郊外に、お人形さんの遊びに行く豊島園のようなものを作りましょう。それから池の組でこしらえていらしたような水族館も作りましょう。森の組でお作りになったあの動物園も作りましょうね」といえば之にもまた嬉しげなうなづき。

こうして、みんなと話し合っている中、お帰りの時間がまいりましたので、語り合いは之だけにいたしました。翌朝早く或るお母様は、お子さんを送って見えられて、

「昨日、幼稚園から帰りましたら、子供はあしたまで僕、お人形さんの乗る自動車を拵えて行く約束したから、お母さん何か箱をちょうだいと申します。傍で兄達がいろいろとくさしますので、龍太郎が嫌がり、お母様にだけ手伝っていただくと申しまして、昨夜おそくまでかかって作りました。」とおっしゃって、果実箱を利用した自動車を下さいましたのには全く恐縮いたしました。それから同じ朝、も一人のお母様。やっぱりお子さんを送ってこられてのお話に「弘基は、今朝まいります時、僕幼稚園へ行ったら大工さんをして、お人形さんのお家を作るんだから、どうしても板を持って行く、といってきかないのでございますが、どういうお話なのでございましょうか」と御不審。こうなっては、徒らに計画にのみ耽って、ぐずぐずしていられなくなりましたので、早速と板や柱を取り寄せて、実行に取りかかったのでございました。

× × ×

お家は、お人形のお家であると同時に、子供達のお家としても遊べるようにと心掛けて設計しました。

骨組み 高さ五尺、横四尺、奥行き三・五尺、として骨になる柱を組み立てました。柱を直角に切るということはなかなかむずかしく、ここがうまく出来ませんでした為、骨組みが少し曲り、其の為に出来上ったお家が少しく傾いております。計画の始めは、出来るだけ粗に、おおまかにと考えましたので、無論かんな等をかけるつもりはありませんでしたが、子供に木を切ってもらったり、組立てのお手伝いをしてもらっております中、二、三の子供が、手にとげを刺しましたので、たった柱の組立てにさえ二、三人のとげを見るようでは、お家が出来上って、その中で毎日遊んでいるうちにはどんなにたくさんの子供等がとげを刺すことだろうと思いますとやっぱりかんなを掛けた方がいいと思われましたので、柱にも板にも私共と子供達とで代り合ってかけました。で、幾日かの間は、お室の中はまるで、工務所の仕事場のように鋸屑や、かんな屑で一杯になりました。初めの中は、鋸を持っても、まるで動かせなかった弱々しそうな子供でも、こうして一週間か、二週間続けておりましたところ、驚く程上達いたしまして、今では一人残らず自由に

切ったりするようになりました。尤も大工の仕事は非常に力がいりますので、その力の続く時間は至って僅かで、知らない人から見てはなぐさみにちょっといじってみる程度に思われる程でございます。ここの仕事では、柱を切ること、かんなをかけること、釘を打つこと等を子供達に手伝ってもらいました。

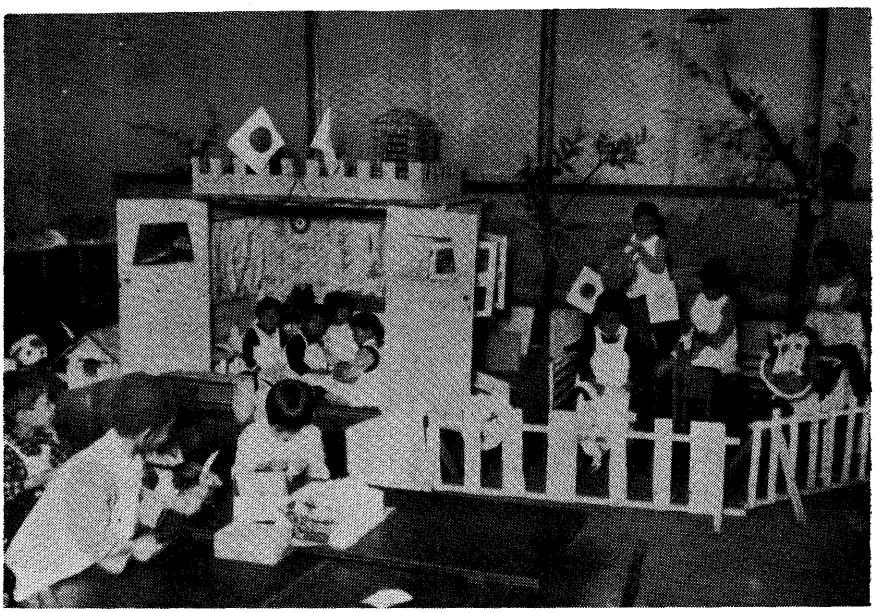
床　柱の組み立てが済みますと、大急ぎで床を張りました。骨組みだけで置くことは、かなり不安でしたので。ここでは床板の長さを私共が測って線を引き、これを切ることは子供に致させました。釘を打つことも子供等がいたしました。

窓　窓は後と両側の三方につけました。後の窓は横一・五尺、縦一・五尺とし、床から一・六尺のところにつけました。この高さは、お家としても釣合いがよく、子供を立たせて見ても、ちょうどよい塩梅の高さを求めて定めました。この横の窓に、二枚開き戸を蝶番で固定させてはめました。戸は硝子をはめたような形にしようと思い、据え付け前に鋸ミシンで窓枠だけ（板がもろいので、枠は割合に幅広く）を残して切り取りました。それから両側の窓、之も床から一・六尺のところにし、横は柱と柱の間全部を開き、縦は一・五尺といたしました。横はやっぱり、硝子のはまるように窓枠だけを残してくり抜いた戸を二枚蝶番で止めて開き戸といたしました。

それから正面玄関の方は左の柱右の柱各に一尺位の板を打ち付け、この板に二枚の開き戸を蝶番で留めて玄関の戸に致しました。この玄関の戸には、中央より少し高い所（やはりこれも子供が立って外を見られる位置）に硝子をはめられるように、梯形の装飾兼窓といったようなのを作りました。この戸には、ハンドルを両方につけました。窓は硝子をはめる程の頑丈な戸でもなし、又硝子は危のうございます故、セロハンを張って見ました。すると子供達は窓が張られた嬉しさに誰もが一応は触って見、その上とんとんと打って見てよろこんでおります中、あっちが破け、こっちが弛みして、大変に貧弱な姿になってしまったので、この家に心を留めて下さった先生方の智恵も拝借して、今度は人力車の前に張られてあるセルロイドの厚い方のものを、商売人の人に探して貰ってそれを張りました。今度も又、子供等は、好奇心からかなり触って見たり、たたいて見たりいたしますが、只今のところは無事でございます。それから子供はよく鍵を好きだからと思いまして、どの窓にも、玄関の戸にも、内から鍵をかけられるような金具をつけました。ここの仕事では、窓をくり抜くことも、硝子を張ることも、ちょっと小細工で、又、安材木だけに、もろくて細工の注意の要るところでしたので、子供達には、戸をはめる蝶番のねじ鋲をはめてもらった位にしました。で、子供等はねじ廻しを使うのがちょっと変った仕事でしたので、競って手伝い、又、案外上手にねじ廻しをまわして止めておりました。尤も、鋲を止める穴は私共が予め金具に合わせてきりであけて置いたのでございますが。

壁　この家には壁というものはありません。普通、壁の部分

人形の家が大体できたのでその中でさかんにあそんでいる（昭和七年十月の頃）



は、みんな横に板を張って壁の代りにいたしました。板の長さを標することは私共がいたしましたが、板を切ること、打ちつけることは子供達でいたしました。一人が釘を打つ、他の二人位は、板を押えて助けて上げる。次ぎにこの人達が代る代る釘を打ったり、押えたりし合う嬉しげな顔。見ている私までがたまらなく、嬉しくなるのでした。

天井　お家の安定のために、と思って、後へ後へと天井張りを残して置きましたところ、床板が張られた頃から、天井の無いお家は変だと、子供達が語り合っていました。そして私に向って、早く天井を張ってちょうだいとせがむのでした。ここは子供達の届かない所ですので、板の切り方だけ子供達に手伝ってもらって、出来た板を私達で、さっさと張ってしまいました。

こうして一通りの極く雑なお家が出来上りましたが、人形と比べてあんまり隔り過ぎておりますので、ちょっと考えさせられました。お人形は綺麗なお洋服を着た、可愛らしいお人形ですし、お家は片面だけ、かんなのかかった極くとげとげしいお家です。そこでお家の外側は何かで塗って見よう、内側の壁紙を貼ろう、と決めまして、塗料や、壁紙の研究にとりかかって見ました。

塗り方　塗料について何等予備知識も持っておりませず、た

かだかエナメル、泥絵具位しか知らなかったのでしたが、この大きなお家をエナメルでは乾きも悪いし、とてもやりきれないと思いまして、せいぜいペンキ位のところに見当をとって、実際塗料屋について当って見ましたところ、ペンキも乾きがあまり思うようでもなく、又エナメルよりはお安くつきますが、それにしてもなかなか廉価という段にはまいりませず、当惑いたしましたところ、塗料屋の申しますに、マンノーというものがあって、之をぬるま湯で溶いて一、二時間もしたら涸らして用いますと、二時間位ですっかり乾き、色もつかず重宝だと教えてくれました。そしてそれ位の大きさの家なら、五十銭の袋一つで充分だと申し添えてくれましたので、之を一つ試して見ることにいたしました。マンノーは粉状で、色も種々ありますが、強烈な色のものは無く、みんな胡粉のは入ったような、やわらかいノーブルな色ばかりです。さて、どういう色合にしていいものかと困っておりましたところが「この家に、現実味のない、フェアリーの住むようなファンシブルなものにするといい」と、倉橋先生がおっしゃって下さいましたので、このお言葉にヒントを得、又他の先生方にも見て頂いて、外はクリーム色、窓枠は水色（胡粉の入った）にいたしました。

こうして塗りはじめたのでございますが、塗ることは、子供は大変によろこびました。塗りたい塗りたい、塗りたい塗らせて、塗らせてという声にまたたく間に塗ってしまいました。成程二時間も経たない中によく乾き、乾いたあとで着物につきそうな様子ですけれど、ちっともつきません。玄関の戸も、お家の中の天井もクリーム色で塗りました。こうなりましたら今度は、早く壁紙が貼ってみたくなりました。

壁紙　壁紙の見本を取って、この家にそぐうような模様色合のを選びました。壁紙の実際研究では、紙質、模様、色合の多種多様あること、それよりも、壁紙を貼る前に、下張りをするものだということを学びました。下張の紙は、茶色であの包み紙などに用いる大きなのを二枚位貼りました。ここでは、子供等は下張を手伝い、上張りは、手際を要しますので私共でいたしました。こうなってまいりますと今度は、一日も早く、カーテンとカーペットが欲しくなりました。

カーテン　布地は、山の組でアルバムに用いていらしった、あの生金巾というのが適当だと思い、之を求めて、之にユーゼンクレヨンで模様を描かせ、濡れ布の上からアイロンをかけて（大きいものは蒸す。こうすると色もほんとの色が出てまいりますし、洗っても落ちません）ほんとうの色を出し、周りにミシンをかけ、かんをつけ、カーテン棒に通して出来上りと致しました。カーテンもカーペットも、このお家にとりかかった直後から、とりかかっておりました。はじめは、何か子供等の描

くものからヒントを得ようとして「お家のカーテンをしますから、模様を考えてちょうだい」と申しまして、カーテン大の模造紙に、男の子、女の子とで描いて見て貰いましたが、みんな思い思いの絵を描いて、繰りも連絡も見られませんでした。之も子供らしくていいと思いましたが、その中いい模様に思い当りましたので、その絵を見せて、一単位宛を子供等に描いてもらって、全部のカーテンを描きました。両側と後の窓と三枚のカーテンですので、之を一人残らずが執筆したわけです。海の昆布や、わかめの繁っている中を、黄色と赤のお魚が泡をふきふき泳いでいる模様です。一番下の岩には、うにがたくさんいます。

カーペット　地はズック。でも生地のままでは引立ちませんので、海の組でいつもしていらっしゃるように、渋を塗って、茶ッぽい、しまった地色にいたしました。これの模様もはじめは、子供達の描くものからヒントを得ようとして見ましたが、カーテンの時と同様で、その中また、気に入った模様を思い出しましたので、このことを子供等に話して了解を求めたのでした。絵は、カタツムリが草の中を這ってる絵なのです。毛糸で輪郭を縫い出しただけではあまり印象的でありませんので、草もカタツムリも、オリーブ色の布で輪郭を縫いだしました。(兼、布をおさえるわけにもなりますが)つまりズックの周囲に草を配り、その上をいろいろの形の(子供によって形が違いましたので)カタツムリが、這っている模様なのでございます。この縫いとりは全部の子供がいたしました。

多い人は十回以上、少ないのでは四、五回は針を持ったでしょう。かえし針で、草や、カタツムリをおさえたのですから、之をいたします時は、針の運びと、布をはずさずに抑えるという両方の働きを兼ねなければなりませんので子供達は、かなり緊張した様子でした。一度教えて上げればよく呑み込んで、二針三針目頃からは独りでどんどん縫って行く子供もあれば、また、幾度教えても、針が進むどころか、見当もつかない方へ飛ぶような子もありまして、なかなか思うようにはかどりません。こうして、漸く出来上った敷物を、釘鋲で、床に打ちつけて止めました。こうして一通り出来ましたお家を「よくなったわね、よくなったわね」といいながら、傍らで黙って見入ってる子供を相手に、飽かず眺めておりましたところへ、お通りがかりに倉橋先生が、おいで下すって「ああこの家にストーブがあるといいな。それから、実際の連絡は無くとも、煙突も立つといい」とおっしゃって下さいましたので、なるほどと気がついて、正面後側の窓下に、ストーブを拵えました。

ストーブ　木で、ファイヤープレースの恰好の枠を作り向側に火の盛に燃えている絵を描いて(破れぬよう、カンレイシャ

に描く）貼り付け、窓の下にはめ込みました。枠の木は、煉瓦のように塗りました。石炭入も、火箸も十能も子供と私共とで作りました。ストーブを置きましたところ、大変に暖か味が出来て、気持よくなりました。

煙突は、木で作り、煉瓦のように彩色いたしました。之も子供等が喜んで釘を打ち、彩色も手伝いました。煙突の穴からは煙を出しました。（綿を黒く塗って）

バルコニー　挿入の写真で見られますようなバルコニーを乗せました。之もクリーム色に塗りました。之が出来ましたところ、子供達は一層珍しそうに、たちかわり眺めて、にこにこしておりました。そして、ここへ昇る梯子があるといいな、と申し出る子もございます。それから上はどうなっているか見せてくれと、抱っこして貰いに来る子もあったりしました。このバルコニーは子供達には、異様の興味を惹きました。家の格好も、之が出来たために、大変によくなりました。

寝具　ベッド、お人形を求めますと直ぐ「おふとんが無くちゃ」と子供も申しますので、とりあえずお布団を作りました。お布団は出来上ったのですが、寝かす場所が思うようでありませんでしたので、何は無くとも先ずベッドをと思い、お家作りにとりかかるとすぐベッドの製作にもとりかかったのでございました。写真で御覧いただけます、ブランコも鋸ミシンも私ども。釘を打つこと、塗ることをよろこんで子供達がいたしました。色は胡粉のは入った薄緑色です。お家の中の色の釣合を考えて、この色を選びました。お人形が二人ですから二つ拵えました。椅子、テーブル、椅子は、或る小冊子で見た兎の絵を描き、鋸ミシンでこの絵の通りにひき切ります。この二枚の兎を両臂にし、腰かけと、背とを切って適当の広さにして打ちつけました。全体の色をクリーム、背の下方に、緑で草を生やしました。兎の耳の真中の線と眼とは、真赤なエナメルを塗りました。テーブルは一枚板に、板を十字に組み合わした脚をつけた極く簡単なのです。テーブルの上はクリームと緑の染め分け、脚の部に兎耳を思わせるような薄緑の模様を染め入れて、椅子とお揃いにいたしました。

スタンド　写真で見ていただけますような形のスタンドを拵えました。クリームと緑の染わけです。電池を備えて、電球をもつけられるようにいたしました。実際に電燈がつくのですから、子供達とりわけて男の子の悦びようは、たとえようもありません。あまりの珍しさに、時々スタンドの生存が危ぶまれますので、電池をはずしてかくすこともたびたびです。この他ラジオも、電話もと思いましたが、家の中が狭くなりましたし、その時もなくて、まだ無しでおります。

ポスト　真赤な郵便受函も出来て、お玄関の所にかけてござ

います。英語が得意で、いつもアルファベットをボールドへ書いている子供にレタースと書いて貰いました。之れが大変嬉しくて、時々絵を描いたり、字を書いたりしてこの中に入れております。

只今漸くここまで出来上りました。三学期は殆んどこの製作を中心に過ごしてまいりましたし、又子供達は出来ぬ前から毎日このお家を中心にして遊んでまいりました。

「私は大工でございます。今日はお宅のお窓を打ちつけにまいりました」とか「私は左官でございます。お宅の壁を塗りにまいりました」とかいう口上で、お家の中で遊んでる子供達を外へ出して、仕事を進めたことが幾度もございましたでしょう。お家の出来上りました今日は、これも写真のように男の子も女の子も、このお家につづけては、おござを敷いたり、お椅子を並べたりして、このお家を中心に遊んでいます。お外へ出ることが少なくて困る程でございますが、やがてはまた飽きる時も来ようとそのままにしてまいりました。他の組の御子さんまでが時々入って来ては、「よく出来たね、これバルコニーかい」等といいながら前から、後から飽かず眺めてくれる姿を見ますと、たまらなく嬉しく思います。或日の午前は、林の組の方からみんなでこのお家に入り込んで遊んで行く時があります。又或日の午後、海の組の女の方がこの中で遊んで過すというふうで、之を見ますと、ほんとに作りがいがあったと今更のように嬉しく思います。併し初めの計画からいえば、まだ、ほんのお人形さんのお家ができたに過ぎません。之から、前に申し述べたようにこの家の花畑、温室、菜畑、庭木、等を入れ、又屋敷の一隅には、馬小屋、豚小屋等をも加えて柵を巡らし、一方に動物を作り、動物園を作り、遊園地も加え水族館も作りたい考えです。更に電車も自動車も拵えてほんとに子供が乗って歩けるようにしたいと思っております。この企ての出来上りますのはおそらく、来年の三学期にもなるかと思われます。このお家を中心に之等のものの揃った光景を思い浮べますと、嬉しさに胸が躍ります。

併し茲で、私が自身にたしなめておりますことは、作ることの面白さ、出来上りの喜びに、ともすれば、一人としての子供を見逃し勝ちであるということです。殊にもこの四月からは年長組として、小学校への入学を控えております子供達故、夢々この欠点に陥らぬよう心してこの計画を進めて行きたいと思っております。之が、とりもなおさず私の本年度における保育上の主な計画なのでございます。

（昭和七年五月記）